

日本地衣学会 No.183

ニュースレター

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

目次

会務報告	727
第43回青空地衣教室（愛知県岡崎市岡崎公園，2024年11月17日）報告／小杉 真貴子	727
第43回青空地衣教室（愛知県岡崎市，2024年11月17日）で観察された地衣類／原田 浩，小杉 真貴子	730
第43回青空地衣教室（岡崎，2024年11月17日）に講師として参加して／原田 浩	731

会務報告 *Reports of the JSL Activities*

第 43 回青空地衣教室（愛知県岡崎市岡崎公園，2024 年 11 月 17 日）報告

Report of the 43rd Outdoor School on Lichens at the Okazaki Park, Okazaki, Aichi-ken, Central Japan (17 Nov. 2024) / by KOSUGI Makiko

>>>>>>> 小杉 真貴子：第23回大会実行委員長，
自然科学研究機構 基礎生物学研究所
環境光生物学研究部門

日本地衣学会第 23 回大会の関連イベントとして、以下の通り第 43 回青空地衣教室を開催しましたので報告します。

* * *

日時：2024 年 11 月 17 日（日）13 時 30 分～15

時 30 分

場所：愛知県岡崎市岡崎公園（現・岡崎城公園）

参加者：22 名

講師：原田 浩 先生（千葉県立中央博物館）

* * *

集合場所は岡崎公園の大手門から入ってすぐの広場でした。基礎生物学研究所で行われた第 23 回大会参加者の他、基礎生物学研究所から 6 名が参加されました。観察ルートは図 1 に示すとおりでした。快晴に恵まれ絶好の観察日和でしたが、11 月中旬にしては気温が高く蚊に沢山刺されてしまいました。観察会の冒頭（図 1A の場所）でまず、講師の原田先生から、観察会に初めて参加する方のために地衣類の形態の基本となる葉状、樹状、痂状の違いや、地衣類の生態について説明をして頂きました。集合場所の広場から岡崎城

天守閣の方向へ歩いていくと、まず二の丸能楽堂を囲っている塀(図1B)の瓦に沢山のコナアカハラムカデゴケが付着しているのが目に入りました。坂道に建てられた塀は、ちょうど視線の高さに瓦があったため、観察が容易でした(図2)。歩道を挟んで反対側にある石垣にはレブラゴケ属の地衣が確認され、ルーペを用いた微細な地衣類観察のための良いトレーニングになりました。能楽堂から坂道を下って行った先は岡崎城本丸の北側に面しているため日陰になりやすい環境で、地衣類で目立つものといえばコフキジリナリアやレブラゴケ属の地衣、ムカデゴケの仲間などの街中でよく見かける種が多くを占めていました。階段を上がって料亭のある少し開けた場所に出たところで、今回最初の樹状地衣であるハナゴケ属の地衣(おそらくヒメジョウゴゴケ)が確認されました。空堀である清海堀に面した日当たりの良い石垣には様々な痾状地衣類[モエギトリハダゴケ(図3A)、イウニクイボゴケ(図3B)、広義スミイボゴケ属の一種(図3C)、ヘリトリゴケ、イシガキチャシブゴケなど]が固着していました。天守閣へは向かわず、そのまま下り坂を歩き龍城堀沿いのお茶屋さんのところまで行ったところ(図1C)で、原田先生からサクラの樹上に黄緑色のホウキのように生えるマツバラ(シダ類)が着生していることも教えていただきました。お堀沿いのイロハモミジの幹にコチャシブゴケ(図3D)が目立って着生していました。更にお堀沿いを歩いていくと、お茶室を囲う生垣の下付近(図1D)にヒメジョウゴゴケとヒメレンゲゴケが幾つも小さな群落を作って(図3E)、子器が発達しているものは肉眼でも見つけることができました。1年ほど前に下見に来たときより群落がかなり小さくなっていたので、掃除されてしまったかもしれません。お堀沿いに植えられたツツジの枝にナミガタウメノキゴケが着生していました(図3F)。

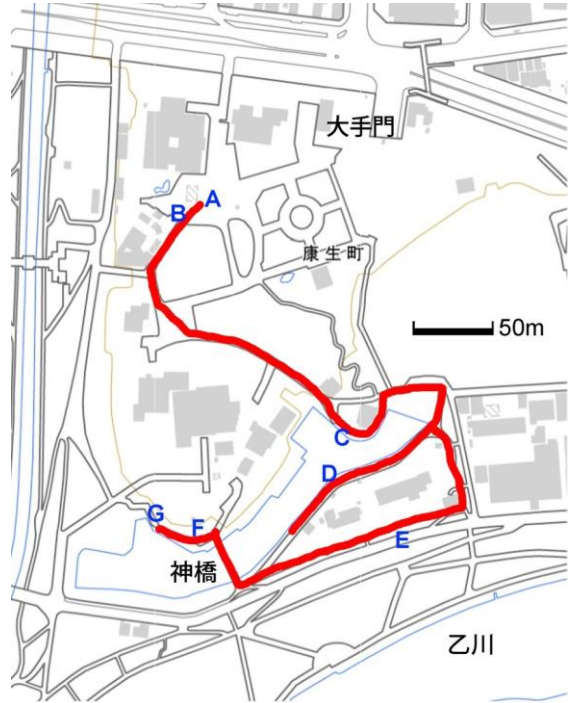


図1. 観察ルートを示した地図。
赤線をAからGの順に歩いた。A, 出発点。B, 二の丸能楽堂の塀。C, お茶屋さん近くでマツバラを観察した地点。D, お茶室を囲う生垣付近。E, マユゴケとサボテンツブゴケを確認した地点。F, ヒカゲウチキウメノキゴケなどが生えていた石垣。G, 終了地点。この図は「地理院地図」の「淡色地図」に文字とルート等を追記して作成した。



図2. 塀の上の瓦に着く地衣類を観察。

葉状地衣は、ムカデゴケ科の出現頻度が多く、コフキジリナリアはとくに良く目立ちました。一方、ウメ

ノキゴケ科は出現場所が非常に限られている印象でした。岡崎公園は桜の名所なのですが、ウメノキゴケが付きやすいサクラの樹幹にもほとんど確認することができませんでした。唯一、一本の樹幹にシラチャウメノキゴケ（もしくはタナカウメノキゴケ）が複数着生しているのが確認されました（図 4）。ここで原田講師により、マユゴケとサボテンツブゴケが確認されました（図 1E）。ルーペを使ってもなかなか観察が難しい上級者向けの地衣類ですが、皆熱心に原田講師の指導を受けながら観察を行いました。

最後に観察を行ったのは、お堀を赤い神橋から天守閣側に渡ってすぐのところにある石垣で、その一部（図 1F の辺り）は生育環境が良いのか、沢山ある石垣の中でなぜかそこにだけヒカゲウチキウメノキゴケや葉状のラン藻地衣類であるトゲカワホリゴケなどが生育していました。

岡崎公園内では都市部で出現頻度が高い地衣類が多く確認されました。基礎生物学研究所の敷地内でも同様の地衣類が確認されましたが、トゲカワホリゴケは確認できませんでした。石垣や周囲にお堀がある環境がトゲカワホリゴケには適しているのかもしれません。また、岡崎城本丸の北側より南側の方が生育する地衣の種が多様でした。岡崎城本丸の南側は日当たりが良く、水が溜まったお堀があるため湿度が高いことが影響しているように思います。

下見の段階で岡崎公園は地衣類の種類が限られている印象でしたので、あっという間に終わってしまうのではと心配していましたが、結果的に天守閣にたどり着くことなく予定時間をオーバーするほどでした。参加して頂いた皆さまと原田先生に深くお礼申し上げます。



図 3. 観察された地衣類。
A, 石垣上のモエギトリハダゴケ。B, 石垣上のイワニクイボゴケ。C, 石垣上の広義スミイボゴケ属の一種。D, イロハモミジ樹幹上のコチャシブゴケ。E, 地上のヒメジョウゴゴケとヒメレンゲゴケ。F, ツツジ小枝上のナミガタウメノキゴケ。



図 4. 多数の葉状地衣が着く樹幹で観察。

第 43 回青空地衣教室（愛知県岡崎市，2024 年 11 月 17 日）で観察された地衣類

Lichens observed during the 43rd Outdoor School on Lichens (Okazaki, 17 Nov. 2024) / by HARADA Hiroshi and KOSUGI Makiko

>>>>>>> 原田 浩：千葉県立中央博物館
小杉 真貴子：基礎生物学研究所

日本地衣学会第 23 回大会に伴い岡崎市で開催された，第 43 回青空地衣教室にて観察された地衣類のリストを以下に示す。

場所：愛知県岡崎市康生町，岡崎公園（現・岡崎城公園）

観察日：2024 年 11 月 17 日

* * *

観察された地衣類

このリストでは，「樹状」，「葉状，鱗片状」，「痂状，微細な鱗片状」の 3 群に分け，学名のアルファベット順に配列した。

<樹状>

Cladonia humilis ヒメジョウウゴケ

Cladonia rei ヒメレンゲゴケ

<葉状，鱗片状>

Candelaria concolor ロウソクゴケ

Canoparmelia aptata (or *C. texana*) シラチャ

ウメノキゴケ（あるいはタナカウメノキゴケ）

Collema subflaccidum トゲカワホリゴケ

Dirinaria appplanata コフキジリナリア

Myelochroa leucotyliza ヒカゲウチキウメノキゴケ

Parmotrema austrosinense ナミガタウメノキゴケ

Parmotrema tinctorum ウメノキゴケ

Phaeophyscia limbata クロウラムカデゴケ

Phaeophyscia rubropulchra コナアカハラムカデゴケ

Physcia orientalis ナミムカデゴケ

Physciella melanchra ムカデコゴケ

Rimelia clavulifera マツゲゴケ

<痂状，微細な鱗片状>

Agonimia opuntiella サボテンツブゴケ

Agonimiella pacifica マユゴケ

Buellia (s.lat.) sp. 広義スミイボゴケ属の一種

Chrysothrix candelaris コガネゴケ

Diploschistis actinostomus キッコウゴケ

Gomphillaceae sp. ヒゲゴケ科の一種

Lecanora leprosa コチャシブゴケ

Lecanora pulverulenta コナイボゴケ

Lecanora subimmersens イシガキチャシブゴケ

Lepraria cupressicola レブラゴケ

Lepraria sp. レブラゴケ属の一種

Ochrolechia parellula イワニクイボゴケ

Ochrolechia trochophora クサビラゴケ

Pertusaria flavicans モエギトリハダゴケ

Porpidia albocaerulescens ヘリトリゴケ

* * *

観察会当日，観察された地衣類を完全に記録できなかったため，若干の漏れ落ちがあるかもしれないが，ご容赦いただきたい。

第 43 回青空地衣教室（岡崎，2024 年 11 月 17 日）に講師として参加して

My Impressions on the 43rd "Outdoor School on Lichens" (Okazaki, 17 Nov. 2024), as the Lecturer / by HARADA Hiroshi

>>>>>>> 原田 浩：千葉県立中央博物館

岡崎で開催された第 43 回青空地衣教室では講師を務めさせていただいたが、その時の補足と感想を述べたい。

* * *

補足というのは、観察できた地衣類のうち、情報が少なく分かりにくかったと思われる以下の 2 種についてである：

1) *Agonimia opuntella* (Buschardt & Poelt) Vězda サボテンツブゴケ

本種については、中国雲南省産の本種に基づき、*Lichenology* 誌上で詳細に報告した、アナイボゴケ科の一種である (Harada et al. 2016)。そのしばらく後に、千葉県でも見つけたのだが、先の雲南の論文で詳細な図と記載を掲載したので、書きにくいなと思って原稿の準備をしなかった。その代わりに、地衣類相調査の結果を記録する中で拡大写真を掲載するとともにとりあえず和名を付けていた (泉他 2018)。その後も、千葉県内の複数の地点から確認している。

この地衣はとても小さな丸っこい顆粒のような地衣体をしているが、その表面に白っぽい棘が生えて、サボテンのように見える。とても小さいが、ルーペでこの棘を見ることが可能であることは、多数の参加者の方に体験していただくことができた。

なお、この棘が、皮膚に生じるバビラが長く伸び、更に複数がより合わさって生じていることは、上述の雲南産の標本について詳細な図を交えて報じたので (Harada et al. 2016)、ぜひご覧いただきたい。

2) *Agonimiella pacifica* H.Harada マユゴケ

こちらもアナイボゴケ科で、サボテンツブゴケよりも地衣体はより扁平なことが多く、樹幹を覆う蘚苔類マット上にしばしば大きな集団を形成する種である。その場所の雰囲気と、地衣体を生じている場所の色彩のイメージがあれば、比較的容易に現地でも発見することができる。しばしば生じる被子器は、概ね卵形だが、基部は鱗片に覆われて上半分だけ裸出することが多い。表面は紫褐色で、環境によっては表面がトメント状の菌糸で覆われるが、これが脱落することも多い。先端には小さな孔が開いており、ルーペで確認することも可能である。

これは著者が記載した地衣類で、原記載時には伊豆諸島八丈島、徳島県剣山、台湾などの標本を用いた (Harada 1993)。その後は、千葉県等で観察会を開催すると、都市部以外ではかなりの頻度で出会うという、かなりポピュラーな種であることが分かってきている。その一方で、この種がどんな地衣類かという情報に会員が触れる機会が無いようにあることに、今回気づくこととなった。

なお、これら 2 種については、既にウェブサイト「日本の地衣類 (ウェブ図鑑)」、「房総の地衣類誌」等に、写真を掲載している。しかし、ほとんど解説をしていないので、*Lichenology* 誌上にて「分布資料」あるいは「日本地衣類誌」として、まとめていく必要性を感じた。

* * *

さて次に、岡崎での青空地衣教室の感想を述べたい。ウメノキゴケ科の葉状地衣が種類・量ともたくさん生

えていると、初心者向けの解説を進めやすいのだが、今回の出だしは主にムカデゴケ科葉状地衣で、前半は他には主に痂状地衣だったので、初心者の方には少し難しかったかもしれない。そのうち少しずつ新しいものが出てきて、変化があって、解説する側としても楽しむことができた。街中でこれだけのことができれば、上出来だったと思う。更に、基礎生物学研究所の方も含め、青空地衣教室に初めて参加された方が多数おいでだった。こういった方々の参加は、講師にとってはやりがいにつながるので、ありがたい。

このような行事は、準備と運営をする方の存在があって初めて可能となることは言うまでもない。今回は、大会実行委員長を務められた小杉さんが、とてもお忙しい中、全て準備してくださったという。感謝申し上げる。

* * *

Harada H. 1993. *Agonimiella*, a new genus in the family Verrucariaceae (Lichenes). *Nova Hedwigia* 57: 503-510.

Harada H., Wang L.-S. & Wang X.Y. 2016. Lichen Flora in the Arid Valley of Jingsha-jiang R., China (1), *Agonimia opuntiella* (Verrucariaceae). *Lichenology* 15: 11-15.

泉 宏子・原田 浩・坂田 歩美, 2018. 地衣類調査記録, (23) 八街市法宣寺. 千葉県地衣類誌資料 (21): 55-58.

ウェブサイト「房総の地衣類誌」.

https://www.chiba-muse.or.jp/NATURAL/special/chi_i_boso/boso-top.html

ウェブサイト「日本の地衣類 (ウェブ図鑑)」.

https://www.chiba-muse.or.jp/NATURAL/special/chi_i_nihon/nihon-top.html

◆原稿募集

本誌は、会員からの原稿を随時募集しています。地衣類にまつわるエピソード、思い出、あるいは地衣類に関する写真とタイトル、簡単な説明文だけでも受け付けます。電子メールにて次のアドレス宛に投稿御願ひします：
bandomakoto@aa6.mopera.ne.jp (坂東 誠)

●複製される方へ

本誌に掲載された著作物を複製したい方は、(社)日本複製権センターと包括複製許諾契約を締結されている企業の従業員以外、図書館も著作権者から複製権等の行使の委託を受けている次の団体からの許諾を受けてください。著作物の転載・翻訳のような複製以外の許諾は、直接本会へご連絡ください。

〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-41 乃木坂ビル 学術著作権協会。

Tel: 03-3475-5618. Fax: 03-3475-5619.

E-mail: naka-atsu@muj.biglobe.ne.jp

アメリカ合衆国における複製については、次に連絡してください。

Copyright Clearance Center, Inc. 222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA.
Phone: (978) 750-8400. Fax: (978) 750-4744

●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission from the following organization which has been delegated for copyright for clearance by the Japanese Society for Lichenology.

Except in the U.S.A.: Japan Academic Association for Copyright Clearance (JAACC).

6-41 Akasaka 9-chome, Minato-ku, Tokyo 107-0052
Japan. Tel: 81-3-3475-5618. Fax: 81-3-3475-5619.
E-mail: naka-atsu@muj.biglobe.ne.jp

In the U.S.A.: Copyright Clearance Center, Inc.
222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA.
Phone: (978) 750-8400. Fax: (978) 750-4744

● *Newsletter from the Japanese Society for Lichenology*, no. 183, pp. 727 – 732: eds. Bando M., Kawasaki E., Tanaka K., Ueda N., published by *the Japanese Society for Lichenology*, 21 Feb. 2025.

日本地衣学会ニュースレター183号

発行日：2025年2月21日

編集：坂東誠・河崎衣美・田中慶太・上田菜央

発行者・発行所：日本地衣学会

〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2

千葉県立中央博物館内

©2025日本地衣学会 (© 2025 The Japanese Society for Lichenology)

本誌記事の著作権は日本地衣学会に属します。無断転載・無断複製等は固くお断りいたします。